

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900034		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームつがる		
所在地	青森県つがる市木造吹原西前田21-18		
自己評価作成日	令和2年7月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和2年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気、自宅に居るときと同じように過ごせるように支援してる。ホームは天井が高い、夏は涼しく、冬は暖かい、過ごしやすい環境となっていて、安定した気持ちで過ごせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム敷地内に花壇や畑が整備されており、利用者が散歩したり、収穫を楽しめる環境となっている。同敷地内にはデイサービスが立地しており、利用している友人や知人と相互交流を図ることができる。管理者及び職員同士連携しつつ、重度化する利用者に対して、安全面に配慮しながら明るく笑顔で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仕事に入る前は、理念を読み上げて、気持ちを切り替えている。職員同士協力し合い、理念に沿ったケアができるように努めている。	近隣に認知症者を受け入れる施設がないことから開設に至った経緯がある。管理者及び職員は、サービス提供場面に生かせるよう、毎日9ヶ条の理念を唱和して意識付けを行い、地域密着型サービスの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室を利用したり、新聞配達員の方と言葉を交わす等、地域とのつながりを大事にしている。	自治会へ加入していて、近隣住民と声をかけ合ったり、宵宮へ参加する等、日常的に地域との交流が図られている。自治会長や民生委員が運営推進会議メンバーとなっており、その人たちを通してホームを理解してもらうように働きかけを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	プライバシーの問題があるため、ボランティアの受け入れ等には至っていないが、運営推進会議の際、自治会長や老人クラブ会長、民生委員、居宅介護支援事業所等に対して、グループホームでの活動を説明するなど、ホームの役割を通して、社会貢献している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、書類会議で行っている。利用者さんの様子やホームでの活動を報告し、ご意見やご質問があったときは連絡をいただき、次回の運営推進会議で報告している。	運営推進会議には、自治会長や民生委員のほか、有識者の参加がある。会議では、利用者の生活状況及び運営状況の報告や情報交換のほか、メンバーから意見アドバイスを基に、サービス向上に繋げる取り組みを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響があるため、運営推進会議を開催予定の場合、書類による開催で良いか、市役所に確認している。	毎回市役所職員の参加があり、意見や提案を基により良いサービスの向上に生かしている。適宜介護保険に関することについての相談や新型コロナウイルスの対応についての情報提供等、行政との連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い利用者さんには、話を良く聞いて落ち着いていただいている。また、職員同士、声を掛け合って見守りをしている。施錠はしていない。転倒のおそれがある利用者さんには、車椅子に移乗して見守りすることがあるが、できるだけ職員同士で声を掛け合って、見守りをしている。	身体拘束が及ぼす悪影響について、身体拘束廃止委員会や勉強会を定期的に開催し、職員の理解度を高めている。帰宅願望が強い利用者に対して、気分転換できるように工夫したり、無断外出時の対応を統一して、近隣住民や公共機関に協力を働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催して、虐待は絶対にしないという認識をもって業務に取り組んでいる。虐待を見過ごすことがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して、成年後見制度について学んでおり、今後、利用を希望する方がいる場合は、関係機関と協力し合いながら支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は、契約書等を通してホームの説明を行い、質問等には都度説明しているほか、退所時の内容についても、入所契約書等を通して説明している。また、利用内容に変更があった場合は、早目にお知らせし、変更前に再度説明を行い、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と面会時は、必ず利用者さんの様子を報告するほか、毎月手紙にまとめて報告している。その際、質問や要望についての確認をし、要望等がある場合は、ご家族様と相談して決めている。そのときの内容は、職員間で共有し、統一したケアを行っている。また、その後の経過を全職員で共有し、より良い介助ができるようにしている。	入居時に重要事項説明書で説明しているほか、玄関内に苦情受付窓口を明示している。家族面会時には、毎回意見要望の有無を確認している。出された意見要望に対して、申し送りや勉強会で課題解決に向けての話し合いや対応を図る体制が整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等を通して、意見や提案を聞く機会を設ける等、働きやすい職場づくりを心掛けている。また、利用者さんと良好な関係を築いて、ケアに取り組んでいる。	申し送りや勉強会で、職員一人ひとりから意見を聞いている。必要に応じて、管理者を通して代表者へ報告や相談を行う仕組みとなっている。職員の異動はなく、管理者をはじめ、開設時からの職員が在籍しているため、利用者や家族と馴染みの関係が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が適時、報告を行い、職員の思いや状況を把握するようにしている。また、ペースアップや労働日の調整等を行い、職員同士が協力し合いながら、楽しく働ける環境となるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内で勉強会を行う等、一人ひとりが向上心を持って取り組める環境となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所やデイサービスの職員等に運営推進会議に参加してもらい、意見をいただき、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントのときに、思いを引き出せるように問い掛けをしたり、利用者さん同士の会話から思いや要望を汲み取って、他の職員にも伝え、その思いに応えられるよう努めている。また、安心して生活ができ、良好な関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があったときには、ご家族様の気持ちに同調し、信頼関係が築けるように意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんやご家族様の希望を確認しながら、必要としている支援を見極め、希望に沿った介護計画を立てている。また、困難なときは職員の意見を参考にして、対策を考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんでもらう等、利用者さんができることは手伝ってもらっている。「ありがとう」、「助かったよ」と感謝の気持ちを伝え、利用者さんに自分の存在感を感じてもらえるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは手紙や電話で報告し、アドバイスをいただく等、共に利用者さんを支えられるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た時は、居室で一緒に過ごしてもらっている。ご家族様と相談して、一緒に外出することもある。	アセスメントや日々の利用者とのコミュニケーションの中から馴染みの人や場所を把握し、電話の内容取り次ぎや手紙の代筆等を行い、支援している。利用者の希望により、家族へ協力を働きかけながら外出できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん全員でテレビを見たり、会話をし、一緒に過ごす機会を設けている。レクリエーション活動では、お互いに手伝ったり、教え合う等、良好な関係が築かれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でもご家族様から声をかけていただき、現在の様子を報告していただく等、良好な関係を築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんが望む生活の場でありたいと思っただくように支援している。把握が困難なときは、利用者さんが納得できるように工夫や助言している。ご家族様に相談することもある。	日々のケアを通して、職員全員で様子を見守りをして、思いや意向を把握している。意向確認が困難な利用者に対しては、表情や行動から、利用者の視点に立ち把握するように努めている。必要に応じて、家族や関係者から情報収集を行い、意向把握に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者さんやご家族様、関係者等から聞き取りをして、情報収集している。入所後もご家族様にホームでの様子を報告し、自宅に居た頃の様子を聞いて、新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、気付いたことや思ったことについて申し送りをし、話し合いをしながら、利用者さんの心身の状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様にホームでの様子を伝え、検討したいことについては、自宅に居た頃の様子を聞き、今後について相談している。また、職員間でも情報共有し、現状に合わせた介護計画を作成している。	利用者や家族から意向確認するとともに、職員の気づきや意見を反映させ、利用者本位の具体的な介護計画を作成し、定期的に評価を行っている。利用者の身体状況や家族の希望等に変化があった場合は、再アセスメントを行い、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても分かるように詳しく記録し、思ったことや感じたことを記録している。それをもとに職員で話し合い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況に合わせて、支援するようにしている。他機関のサービスも参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、地域と関係機関に情報の提供と協力をお願いしている。得た情報と地域にどのようなサービスがあるのかを調べ、外部の方とのつながりを持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんやご家族様の意向で自宅に居たときと同じ病院に通っているため、かかりつけ医との連携が図れている。また、入所をきっかけに病院を変えたいという相談があり、ご家族と今後のことを考え、病院を変えた方もいる。受診結果は手紙等で詳細に報告している。	入居時に、本人及び家族から医療機関の受療状況を確認し、希望に応じた医療機関の受診を継続できるよう支援している。受診時の状況や説明について電話で報告し、情報共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院先の病院に情報提供を行っている。ご家族様も交えた治療方針の話合いの場に職員も参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、重症化した場合、状況によっては、ホームでの暮らしが困難な場合もあることを伝えていて、次の受け入れ先の確保と入所できるまでの支援を継続することを説明している。	あらかじめホームの方針として重度化や終末期の対応は行っていないことと、急変時や重度化した場合は、医療機関や他施設への移動支援すること等を説明し、家族の承諾を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の介護現場で、事故発生時にケアの仕方を伝えている。また、実際の経験や勉強会、マニュアルを通して、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員を交えて避難訓練を行っている。職員が消火器を使った消火訓練も行っている。また、水害時等の避難経路は、マニュアルを通して共有していて、自治会長等に協力を仰ぐ等、地域との協力体制を築いている。	具体的な避難誘導マニュアルが作成されており、年2回地域住民や消防署員の協力を得て、利用者とともに夜間想定避難訓練を行っている。災害時に備え、食料や飲料水、防寒具、暖房器具等をホーム内や車庫の物置に常備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんは人生の先輩であるという意識を持ち、言葉遣いに気をつけている。また、プライバシーに配慮した対応に心掛けている。	言葉掛けや利用者への対応について、個人の尊厳を守り、プライドを傷つけないようにホーム全体で見守り、お互いに注意するよう取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの気持ちを引き出せるような声掛けをして、表情からも読み取るようにしている。また、本心が言えるような環境づくりをして、思いを聞いて、一緒に考えて、自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの希望に沿うような支援を心掛けている。難しい場合は、早目に説明して、なるべく希望に近づけるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は一緒に服を選び、明るい気分で過ごせている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夢中で食べている人や話しながら食事をしている人等様々だが、みんな楽しみながら食事をしている。手伝いができる利用者さんには、おしぼりをただんていただいたりしている。同じ利用者さんばかりに手伝ってもらうことにならないように、毎回別の利用者さんに手伝ってもらっている。	利用者の嗜好や禁忌物を考慮して、職員が個別の状況に応じた食事を提供している。利用者の重度化にともない、嚥下状態の見守りと食事介助を重点に置いている。おしぼりたたみなど利用者の能力に応じた作業を提供し支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のチェックを毎回行ない、摂取量が少ない方には、声掛けをして促している。気になる場合は、主治医に報告相談して、指示をいただいている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者さんには、職員が介助しながら行っている。自分のできる利用者さんでも、磨き残しがないかを確認して、必要であれば職員が支援をして、口腔内を清潔に保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁がある方でも定期的に声掛けやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を維持できるように支援している。	排泄チェック表に記録して把握している。プライバシーや羞恥心に配慮しながら、個々の利用者の排泄パターンに応じた事前のトイレ誘導が行われている。また、トイレでの排泄を目指すとともに、利用者の排泄状況に応じた排泄用品の検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操をして、水分を多めに摂るようにすることで、便秘予防をしている。排便がないときは、処方されている下剤を服用し、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は週4回あり、週2回は入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者さんには、工夫しながら声掛けをして、定期的に入浴して、清潔に過ごす事が出来ている。	通院や入浴拒否をする利用者を考慮して入浴日を週4回設けており、入浴日、時間や入浴の順番等、利用者の意向に沿いながら入浴支援している。利用者の状態に応じて、シャワー浴や足浴等をして、負担感や安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんには起床時からホールで過ごしてもらっている。昼食後は居室で休めるようにしている。就寝時間が一人ひとり違うため、それぞれの生活リズムに合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったときは、職員間で申し送りをして、利用者さんの様子を観察している。また、服薬についても、誰に飲ませるのかを声に出して確認し、全員の服薬後も飲み忘れないかを職員2人で確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何事も張り切って行う方は、消極的な利用者さんに声掛けしたり、教えたりして、楽しく参加している。身体的に不自由な利用者さんは、職員と共に行う等、全ての利用者さんが参加して気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画は、利用者さんの希望と身体状況に無理がないか判断しながら作成している。また、日頃から利用者さんの様子をご家族様に報告し、協力を得ながら支援している。	敷地内の畑や花壇を見物しながら散歩している。利用者からの希望があまりないため、職員が外出先を提案して選択してもらっている。定期的な外出行事を計画しており、利用者の身体状況への負担を配慮して、楽しみが感じられる場所へ出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の意向により、全ての利用者さんが金銭を所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話では聞き取り等ができないことがあるため、制作活動等を通して、ご家族様に気持ちを伝えられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は季節を感じられるような飾り付けをしている。ホール内に温度計、湿度計を置き、風通しを良くして快適な空間となるように工夫している。	オール電化で温度管理されており、利用者の寒暖感覚に合わせて温度や風量を調整している。共有スペースは季節感のある装飾がされていて、食事用テーブルとソファのスペースに区切られ、利用者が思い思いの場所でゆっくりとくつろげる環境となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ席とテーブル席があり、多くの方がソファ席で過ごしている。居室で過ごしたい方は居室へ誘導して、思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の意向で、入所に合わせて新しい物を使っているが、居室にはタンス類を備え付けているので、日常で使う湯飲み等は持ち込みがある。	利用者の馴染みの物や愛用品の持ち込みを働きかけている。持ち込みが少ない利用者に対しては、意向確認しながら、一緒に作成した作品を飾る等、本人の生活様式に合わせた居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝食前に今日が何日なのかを伝える等、季節感を持ってもらえるようにしている。自分が座っているまわりのゴミを拾って、ゴミ箱に捨てる方は、それが日課となっている。いつまでも歩行ができるように歩行訓練をしており、心身共に豊かな生活ができるよう支援している。		